

救急診療部からのお知らせ

みなさんは救急医療についてどのようなイメージをもっているのでしょうか。救急外来は救急車で運ばれてくる患者さんに対応している場所の印象があると思います。しかし実際は救急患者だけでなく、入院している患者の対応も行っていきます。そんな救急外来の実際の仕事を最新の救急事情とともに今回は話していきます。

Q1 救急外来ってなに？

ドramaのような24時間、重症患者が次々と運ばれてくるというイメージが強いと思います。実際には重症患者ばかりではなく帰宅できる患者さんも多くいます。重症患者さんが運ばれてくる場所というよりは「年齢や時間、症状に関係なく、病気により不安を抱えたすべての人が利用可能な場所」といえるでしょう。また専門

的な外来ではなく「応急的な処置をして次の専門治療につなげるために状態を安定させる場所」ともいえます。

Q2 救急外来は忙しいの？

人口の高齢化が進み救急車で運ばれてくる患者さんも、救急外来から入院する患者さんも年々増加しています。10年前の2倍近くになってきています。したがって時間を問わずどんどん忙しくなってきました。そのような中で緊急性の高い病気をすばやく察知し、その病態をいち早く判断し、すぐに治療につなげることが必要となります。「トリージ」といって診療の優先順位をつけ、緊急度の高い患者さんから診療を行うこともありますので軽症の患者さんは待つていただくこともあります。

Q3 入院患者の対応も行うの？

救急診療部では救急外来を受診する患者さんの対応以外にも病院内で発生した突然の急変患者さんの治療にも対応しています。突然の意識障害に対する診察や心肺停止状態に対する蘇生治療を病棟に駆けつけて行っています。蘇生治療を行うだけでなく看護師・スタッフなどが、医師の到着するまでに対応し蘇生できるよう教育をおこなっています。さらには急変を起こしそうな患者さんの状態変化を察知し急変を予防して対応する「院内迅速対応システム：rapid response system」を管理して入院患者さんが安全に治療を受ける体制を作っています。

ここからは救急一般に関しての疑問にお答えするとともに、最新

の救急について話をしていきます。

Q4 どのような状態になったら救急車を呼んでいいの？

急な病気やケガをしたとき、救急車を呼んだ方がいいのか迷うときがあると思います。まず「意識」「呼吸」「循環」に異常がある場合や突然の激痛・痙攣などは迷わず呼んでください。それ以外の状況のときで迷う場合は「消防庁」「救急車利用マニュアル」で検索してもらうと具体的に記されていますので是非ご利用下さい。検索している時間・余裕がない場合は「#7119」をダイヤルしてください。医療従事者（医師・看護師）から電話でアドバイスを受けることができる相談窓口（救

急安心センターぎふで相談することができます。

Q5 マイナ救急とは？最新の救急

マイナ救急とは救急車利用時にマイナンバーカードを活用して救急業務を行うことです。具体的にはマイナ保険証を活用することによりどの病院に今までかかっていた、どのような薬を処方されていたかが速やかに把握できるようになります。これを救急隊が活用できると救急業務が迅速、円滑になり傷病者をより早く医療機関に搬送でき、より早く治療を開始できるようになります。現在は試験運用ですが近い将来本格的に導入される見込みとなっています。

定期開催の「岐阜市民病院公開講座」の講演動画は、岐阜市公式YouTubeチャンネルで公開中です！玉川医師による「救急診療部」に関する講演動画は、4月より公開しています。詳しくは、当院ホームページをご確認ください。



岐阜市民病院ホームページ

今月の先生

岐阜市民病院 救急診療部長

玉川 紀之

○役職

脳神経外科部長
救急診療部長
脳卒中センター長
研修センター副センター長
栄養部副部長
脳卒中センター脳卒中相談室長

日本脳卒中学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医

○卒業年、主な職歴
平成8年卒

○主な資格、認定

日本脳神経外科学会専門医・指導医

